

**ご卒業おめでとう！** ~ 卒業生男子39名、女子34名、計73名 ~

11日（金）東北関東大震災・長野県北部地震が発生し、甚大な被害がありました。地震で被災された方々の中には、中学校進学をひかえていた方々もいたことと思います。心より哀悼の意を表し、お見舞い申し上げます。

今日、巣立つ卒業生の皆さんは、この大きな災害があったときに卒業の日を迎えたことを心に刻み、やさしい心をもち続け、人のために尽くすことのできる人に育ってくださることを心から願っています。

『ゆずり葉』 「花鎮抄」より 河合 醉茗 作

子どもたちよ  
 これはゆずり葉の木です  
 このゆずり葉は  
 新しい葉ができると  
 入り代わって古い葉が落ちてしまうのです

こんなに厚い葉  
 こんなに大きい葉でも  
 新しい葉ができると無造作に落ちる  
 新しい葉にいのちをゆずって

子どもたちよ  
 お前たちは何をほしがらないでも  
 すべてのものがお前たちにゆずられるのです  
 太陽のめぐるかぎり  
 ゆずられるものは絶えません

かがやける大都会も  
 そっくりお前たちがゆずり受けるのです  
 読みきれないほどの書物も  
 みんなおまえたちの手に受け取るのです  
 幸福なる子どもたちよ  
 お前たちの手はまだ小さいけれど

世のお父さん、お母さんたちは  
 何一つ持ってゆかない  
 みんなお前たちにゆずってゆくために  
 いのちあるもの、よいもの、美しいものを、  
 一生懸命に造っています

今、お前たちは気が付かないけれど  
 ひとりでのいのちは延びる  
 鳥のようにうたい、花のように笑っている間に  
 気が付いてきます

そしたら子どもたちよ  
 もう一度ゆずり葉の木の下に立って  
 ゆずり葉を見るときがくるでしょう



**ご退職・ご転任される先生方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます**

皆さんの未来が輝くものであることを願い、上記の「ゆずり葉」の詩を贈ります。中学校でも、命を大切に、私たちの思いを引き継いで、力いっぱい輝いてください。卒業生のこれからは幸多かれ！

担任等	お氏前	転任校等	本校勤務
庁務	大内学先生	ご退職	4年
養護	山崎カヨ子先生	ご退職	8年
ことばの教室	瀧澤勢津子先生	千曲市立五加小学校	4年11月
初任研(4松)	北澤佳津子先生	ご退職	1年6月
6年竹組	山本敦子先生	ご退職	2年
5年松組	塚田操先生	千曲市立埴生小学校	5年7月
介助員	市川英子先生	千曲市立五加小学校	2年
6年松組	小池辰弥先生	千曲市立戸倉小学校	4年
図書館司書	瀧澤ひろ美先生	千曲市立東小学校	6年

## 三学期終業式（3月16日（水））学校長の話から



去年はできなかったけれど、今年是可以ようになったことがあるでしょうか。2・4年生の代表の皆さんの発表では、九九やなわとび、漢字、委員会活動...と、いろいろなことに挑戦し、成長したことが発表されました。皆さんも自分のがんばったことを確認してください。

平成22年度3学期が今日で終わり。卒業式まで入れて、47日の登校日数でした。3学期は1年の締めくくりの学期でもありました。1年間を振り返って学習のまとめをし、4月からの新しい年度に橋渡しをすることができました。

1年間の中で、地域の皆さんから屋代小学校の子どもたちのがんばりについて、いっぱいよいお話をいただきました。その中で最近、5年生の授業参観においてになった地域の方が「清掃中で校舎に入るのを遠慮していた玄関で、きれいになった校舎や植木を眺めていると『どうぞお入りください』と声をかけられ、昇降口を上がると『5年生の教室はこちらです』と案内してもらった」と話してくださいました。また、ある支部長さんが学校に来られて「校長先生『こんにちは』のあいさつを、子どもたちからたくさんしてもらいました。よい子たちが育っていますね」と話してくださいました。このような話を聞くたびに、この1年間、皆さんがよりよく成長してきたことを感じ、うれしくなりました。

明日はいよいよ6年生の卒業式です。響く歌声で、6年生を送り出しましょう。6年生も、最後の響く歌声を残して行ってください。

4月から6年生は、中学1年生。5年生から1年生の人は、1つずつ学年が上がり、新しく入学してくる1年生のお兄さん、お姉さんとしての生活が始まります。春休みに入りますが、この休みは、次の学年の準備をするための大切な休みです。計画を立てて、新しい学年に備えてください。

最後に、先週の金曜日、東北関東大地震、そして長野県北部地震が発生しました。栄村の小学校は、終業式どころか卒業式がいつできるか決まっていないと聞きます。それ以上に東北地方では、1万人以上の方が亡くなっているようです。屋代小の通学区域に住む人、屋代・粟佐・杭瀬下の赤ちゃんから高齢の人まで全員が一瞬にして命を落としたこととなります。これからやりたいことがいっぱいあったはずなのに、亡くなった人や今なお住む家もなく、教科書もノートもすべて失った同じ小学生がいるのです。私たちは、今、生きています。生かされているのかもしれない。自分の目標を達成するチャンスを与えてもらっていることに感謝し、今、精一杯生きて、精一杯努力することで、被災者の皆さんの思いにこたえていきましょう。春休み、健康で事故のないよう過ごしてください。

